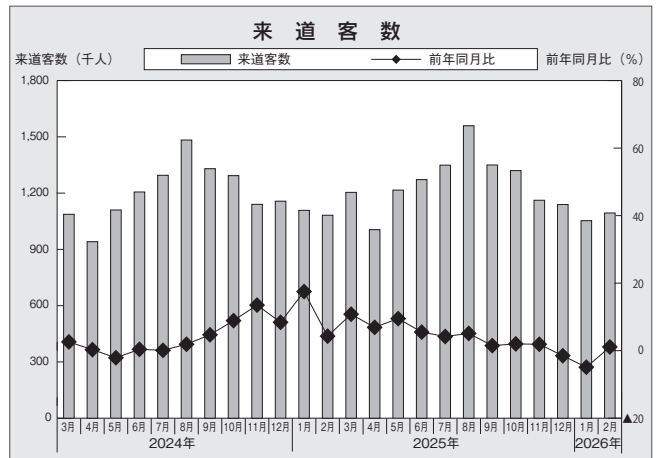
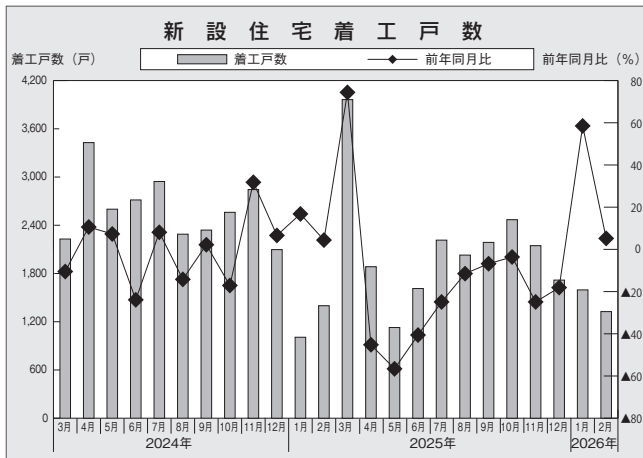
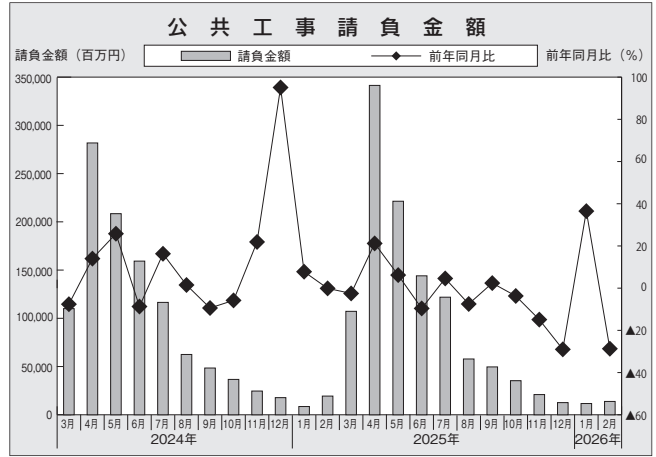
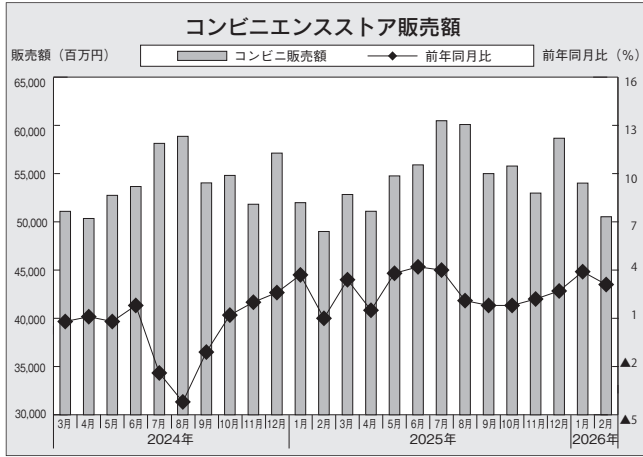


北海道の主要経済指標

出典：経済産業省 北海道経済産業局 管内経済概況 主要経済指標



北海道の主要経済指標	コンビニ販売額		公共工事請負額		新設住宅着工戸数		来道客数			
	販売額 (百万円)	前年同月比	請負額 (百万円)	前年同月比	着工戸数 (戸)	前年同月比	来道客数 (千人)	前年同月比		
2024年	3月	51,088	0.8	110,023	▲ 7.6	2,229	▲ 10.5	1,087	2.6	
	4月	50,348	1.1	281,773	14.0	3,428	10.6	941	0.3	
	5月	52,746	0.8	208,449	25.8	2,600	7.3	1,110	▲ 2.1	
	6月	53,663	1.8	159,292	▲ 8.7	2,715	▲ 23.9	1,206	0.4	
	7月	58,134	▲ 2.4	116,498	16.3	2,944	8.1	1,295	0.1	
	8月	58,864	▲ 4.2	62,509	1.5	2,289	▲ 14.2	1,483	1.9	
	9月	54,038	▲ 1.1	48,460	▲ 9.4	2,340	2.2	1,330	4.7	
	10月	54,812	1.2	36,653	▲ 5.8	2,561	▲ 17.1	1,293	8.9	
	11月	51,824	2.0	24,592	21.9	2,844	31.8	1,140	13.5	
	12月	57,125	2.6	17,741	95.1	2,097	6.6	1,157	8.4	
	2025年	1月	51,986	3.7	8,544	7.8	1,007	16.8	1,108	17.5
		2月	49,000	1.0	19,377	▲ 0.1	1,399	4.4	1,082	4.3
3月		52,835	3.4	107,227	▲ 2.5	3,963	74.4	1,204	10.8	
4月		51,096	1.5	341,431	21.2	1,884	▲ 45.2	1,005	6.9	
5月		54,762	3.8	221,357	6.2	1,128	▲ 56.6	1,216	9.5	
6月		55,905	4.2	144,051	▲ 9.6	1,613	▲ 40.6	1,272	5.5	
7月		60,479	4.0	121,895	4.6	2,215	▲ 24.9	1,349	4.2	
8月		60,088	2.1	57,831	▲ 7.5	2,029	▲ 11.5	1,559	5.1	
9月		54,999	1.8	49,614	2.4	2,187	▲ 6.8	1,350	1.5	
10月		55,784	1.8	35,313	▲ 3.7	2,469	▲ 3.6	1,320	2.0	
11月		52,981	2.2	20,933	▲ 14.9	2,146	▲ 24.9	1,162	1.9	
12月		58,667	2.7	12,597	▲ 29.0	1,718	▲ 18.1	1,139	▲ 1.5	
2026年	1月	54,016	3.9	11,659	36.5	1,596	58.5	1,053	▲ 4.9	
	2月	50,526	3.1	13,820	▲ 28.7	1,326	5.2	1,094	1.1	

今号の特集は、信金中央金庫 地域・中小企業研究所発行の産業企業情報No.2025-19(2026.2.2発行)より、人手不足時代の「人材育成」をにらんだ社内体制整備等に取り組む中小企業の2件の事例を、一部抜粋転載してご紹介いたします。

信金中央金庫 地域・中小企業研究所 上席主任研究員 鉢嶺 実 氏

1. 株式会社スリーベル（東京都西東京市）

(1) 高齢者デイサービスや放課後等デイサービスなどを多店舗展開

株式会社スリーベルは、東京郊外の西東京市を中心に、高齢者デイサービス「スリーベルデイ」、障がい児をサポートする放課後等デイサービス「クローバーよつばのいえ」などを多店舗展開する福祉関連事業者である。近年では、保育事業、結婚相談所事業、警備事業も展開するなど、幅広く「人」に関連する分野へ事業領域を拡大させながら今日に至っている。

創業者で代表取締役の鈴木剛氏（65）は、2000年の同社設立当初から携帯電話の代理店業務を中心に事業を展開してきた。しかし、2008年の端末販売方式の大幅変更などを受けて事業環境が激変。これを契機に同事業からの全面撤退を決断するとともに、一転して将来の少子高齢化を見据え、2009年からは小規模で一軒家タイプの高齢者デイサービス施設の多店舗化へ踏み出した。さらに、知人のアドバイスなどを受けて、2015年からは障がい児を預かる放課後等デイサービス施設の多店舗化も進め、この2つが現在の収益の2本柱となっている。

現在では、高齢者デイサービス「スリーベルデイ」12か所、放課後等デイサービス「クローバーよつばのいえ」13か所、保育園「どれみ保育園」1か所などを、本社事務所にほど近い西武池袋線「ひばりヶ丘」駅を中心に広域展開している。年間延べ利用人数約9万人、グループ年商約12億円、従業員数約300名（うち正社員約120名）を擁する中堅企業として躍進を続けている。

(2) 社員それぞれの価値観を尊重した職場環境づくりを実践

鈴木社長は、社員1人ひとりの考え方や価値観を尊重する「価値相対主義」（注 i）という考え方の下、それぞれの社員がそれぞれの価値観で「自己実現」できるような職場環境づくりを実践している。例えば、同社では社員1人ひとりの希望（自己実現への道のり）に合わせられるよう、以下に示すような3通りの働き方を設け、その働き方に応じた給与体系を明確化している。

すなわち、①管理者や幹部候補など上を目指して役職者としてバリバリ働きたい（給料を多く欲しい社員には責任と権限をどんどん与えて仕事を楽んでもらう）、②家庭やプライベートを重視しつつ仕事とうまく両立させていきたい（家族の団らんやプライベートを重視したい社員には中程度の責任と権限で会社に貢献してもらおう）、③自分の夢や目標の実現のため空いた時間で限定的に働きたい（人生の目的が他にあり当社との関わりを限定的に考える社員には責任と権限を与えず責任者の指示のもと時間内に集中した仕事をこなしてもらおう）といった3通りの基本的な働き方を、社員が自由かつ柔軟に選択できるような就業環境を整え、社員1人ひとりの自己実現へ向けて会社を利用してもらえるよう、全面的にサポートしている。

経営管理面では、毎月1回、4つの事業部ごとに責任者が集まり、事業所ごとの売上と経費の報告をしたうえで、利益（＝賞与の原資）がいくら出て、社員に配分できる賞与の総額が今月いくら増えたかを1円単位で全社員が確認できる仕組みが構築されている。賞与総額の配分は、事業所ごとにその施設長と事業部長の裁量で自由に決めることができるため、現場で働く社員にとっては経営指標の改善が賞与の増加に直結することを日々実感できるほか、管理職クラスの社員にとっても広範な裁量権そのものが管理職としての自己実現（働きがい）につながっている。

また、福祉関係の資格取得など社員1人ひとりの努力次第で給与が上がる制度もあり、自身の成長が処遇改善にもつながっていく仕組みとして機能している。

さらに、同社ではチームワークとコミュニケーション能力を重視した全社的な取り組みも活発に執り行われている。全社員が一堂に会する社員総会（年1回）のほか、事業所ごとに年3回程度、会社負担で社長や管理職と飲む機会（参加は任意）が設けられ、「和して同ぜず」のごとく、立場の違いを超えて大いに語り合うことが奨励されている。このほか、バーベキュー大会やフットサル、エステ併設の温泉旅館に宿泊する「ビューティーツアー」など、全社的な各種イベントも活発に行っているが、価値相対主義を掲げている社風を反映し、参加・不参加はまったくの自由という設定になっており、1人ひとりの考え方を尊重していくことに配慮しつつも、風通しの良い職場づくりを実現している。

鈴木社長のリーダーシップの下、明確化されたルールの中で、普段はそれぞれの拠点単位で活動している現場社員と経営陣が一堂に会し、リアルでコミュニケーションをとれる仕組みを構築・運営していることが、同社躍進の原動力のひとつとなっている。

(3) 中長期目線で高めの経営目標を掲げて今後もさらなる躍進を指向

同社では、M&Aなども織り交ぜながら、現在の事業所数（計28か所）を3年後には40か所、さらにその5年後には80か所程度まで拡大させるなど、意欲的な経営目標を掲げることで全社的な士気高揚へつなげている。

同社が展開するデイサービスや保育園などの現場は、いずれも利用者と直接的に触れていく仕事であることから、働き手にとっては日々苦勞も多い反面、「人のお役に立てていることを日々実感できる」というポジティブな面も持ち合わせている。実際、現場で働く社員からは「利用者がよりよく過ごせるようにするためにはどうしたらよいかを職員みんなで考えながら働けることは充実感に繋がります」などの声もあり、こうした自身の成長を実感でき、かつそれを公正に評価する同社の企業風土は、今後も躍進の原動力となっていくものと期待されよう。

2. 株式会社金見(かなみ)工務店 (島根県松江市)

(1) 江戸時代からの大工職人の流れを引き継ぐ地域密着型の総合建設業者

株式会社金見工務店は現社長・金見誠司氏(54)の祖父が、江戸時代から続く松江の大工職人の家系で育った流れを汲んで、1948年(昭和23年)に同地で創業したことに始まる。その後、1978年には有限会社化、1992年には株式会社化と、会社組織としての体制整備を経ながら現在に至っている。2005年に先代(父親)の後を継いで34歳の若さで三代目に就任した金見社長は、それまでの職人集団的な経営スタイルからの脱却を目指し、社訓「誠実こそが信用を築く」と併せて、「地域 No.1工務店」になることを目標に掲げながら、会社組織としてのさまざまな職場環境づくりを推進している。

現在の売上構成比(年商約12億円)は、地場の工務店として個人から請け負う住宅関係のみならず、店舗や工場等の法人関係、公共工事やスーパーゼネコン等の協力工事が、それぞれ3分の1ずつとなっている。なお、同社の正社員57名のうち、12名は職人(大工やマルチ工、家具工)が占めている。同社は、もともと職人集団的な組織だった経緯もあり、業務の平準化や雇用の安定など、職人が社員であること自体のノウハウが、今日では同社の強みのひとつとなっている。

また、同社の「女性活躍率」は直近で25%超と、業界平均の2倍近い水準にある。同社では、もともとから現場などで女性も自然体で活躍してきたような経緯があり、先輩女子が後輩女子を指導育成するなどの好循環も含めて社風として定着している。近年では時代の要請もあり、育児休業制度などの職場環境整備は着実に進めているが、建設業における女性活躍という部分では、すでに先進的な立ち位置にある。

(2) 独自に構築した人事評価制度の柔軟な運用などで社員の成長を支援

同社では、社員本人とその上司との目標設定およびその振り返り(フィードバック)のための面談(年2回)や、全方位評価(360度評価)なども踏まえた社長面談(年2回)など、金見社長が独自に構築した人事評価制度の下で、対面でのコミュニケーションを重視しながら柔軟に運用している。金見社長は人事評価制度を、雇用関係の根幹をなすものであり、同社の目指す「地域 No.1工務店」という目標とも連動させながら、自身の手によって構築・運営・軌道修正していくべきものであると考えている。経験上、外部機関任せで導入したような制度では、後々自社の進むべき方向性とのブレが生じたりなど、うまく回らないことが常だった。自力で人事評価制度を構築していくことは相応に困難も伴う作業ではあるが、いちど構築してしまえば、あとは状況の変化等に合わせて随時修正していけばよいものでもあり、「新規の制度構築に比べれば、制度修正はそれほどたいへんな作業ではない」と受け止めている。

なお、同社におけるさまざまな職場環境整備への取組みは、各方面からの顕彰等にもつながっている。例えば、2015年度に受賞した島根県の「しまねいきいき雇用賞」(雇用に関して優れた取組みを推進している県内企業を顕彰する制度)では、①会社の雰囲気良くする(挨拶の励行、社内レイアウト整備、清掃体制見直しなど)、②粗利益向上(教育訓練充実、協力会社への発注方法見直し、見積書段階での粗利益設定改善など)、③休暇取得・残業時間の短縮(ノー残業デーの100%実施、バースデー休暇制度、総残業時間削減など)、などに継続的に取り組んでいたことが高く評価された経緯がある。また、全社員参加による「年度経営計画」や「社内月例会議」などを定期的に開催していることも、ポジティブな評価につながった。

また、2022年度に審査員特別賞を受賞した「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞(人を大切に作る経営学会主催)では、①「建物と身体健康見守り隊」を組織したうえで、軽自動車「かなみだんだん まめなか号」(注ii)でOB顧客を中心に巡回し、建物のみならず住人の安否確認も含めた活動を行っていること、②学生インターンシップの受入れなどを通じて、自社のみならず、建設業界全体への理解を深めてもらうための広報活動を積極的に実施している、などの取組みが目目されたことが奏功したもようである。

こうした職場環境にかかわる数々の顕彰等は、前出の人事評価制度などと合わせて社員1人ひとりのエンゲージメント(注iii)向上にも繋がり、社員の成長が会社の躍進にもつながっていくという好循環を生む土壌となっている。

(3) 今後も「地域 No.1 工務店」を目指して躍進へ

同社では、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業を厚生労働大臣が認定する「ユースエール認定」(2024年度)も受けることができた。認定を受けた企業は、人材採用などの面でさまざまな支援を受けられるメリットがあり、今後の人材確保へ向けてのプラス効果が期待されよう。

また、2026年1月には島根県内の建設業で初めて、「くるみん」(注iv)と「えるぼし認定(注v)2つ星(2段階目)」のダブル認定を受けるなど、同社の女性活躍推進への取組みの認知度もここへきて一段と広がっている。

同社では、「社員が『ここで働いていてよかった』と思えるような会社」を目指し、全社員一丸となって今後も松江市内を中心に一段と事業基盤を固めていきたいと考えている。「地域 No.1工務店」を目指して総合建設業者として躍進する同社の今後ますますの活躍が期待されよう。高対策等で食料・エネルギーの減速が見込まれる。

注 i ~ 価値相対主義とは、善悪や正義といった価値や基準は絶対的なものではなく、個人の良心の決断や感情の選択、あるいは文化・歴史・文脈などに依存して決まるという考え方。普遍的基準とは対極的に、多様性と寛容を重視する考え方。

注 ii ~ 島根県の方言(出雲弁)で、「だんだん」は「ありがとう」、「まめなか?」は「元気(まめ)ですか?」という意味で使われている。

注 iii ~ 近年の人材ビジネスにおいては、本来と違う意味で、「企業と社員が一体となって相互の成長に貢献し合う関係性」を指すことが多い。エンゲージメントの向上は、企業への貢献意欲や業績向上につながるとされ、近年では経営上の重要課題と捉えるケースが増えている。

注 iv ~ くるみん認定とは、次世代育成対策推進法に基づき、企業が従業員の子育て支援に取り組んでいることを厚生労働省が評価し「子育てサポート企業」として認定する制度。

注 v ~ えるぼし認定とは、女性活躍推進法に基づき、女性の活躍に関する状況が優良な企業について厚生労働省が、「えるぼし企業」として段階的に認定する制度。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

お取引先企業のご紹介コーナー

当金庫のお取引先企業様を紹介する「誌上ビジネスマッチング」のコーナーです。
是非、皆様の販路拡大やビジネスのご連携にお役立て下さい。
お問合せは、当金庫または直接下記掲載企業様へご連絡下さい。

株式会社 ケーエスコーポレーション 代表取締役社長 合田 隼人 様

〒053-0053

苫小牧市柳町2-7-6

開業から23年目を迎える温浴施設「天然温泉 なごみの湯」です。
苫小牧市柳町に位置し、近くにイオン北海道があり 周辺には空港とフェリーターミナルがあるなど好立地。温泉の泉質は、ナトリウム塩化物強塩泉。湯冷めしにくいのが特徴です。浴槽は、大浴含め5種類 サウナも完備。館内では、食堂 軽食 宴会場 キッズコーナー、リラクゼーションは、あかすりポディケアと充実。

お子様からご年配の方にも一日ゆっくりとおくつろぎ頂けます。心がほっとする「なごみ」の空間をお楽しみください。 営業時間 日～木曜日 朝10時から夜23時

金土祝前日 朝10時から深夜0時（最終受付1時間前）

HPアドレス：<https://www.nagominoyu.co.jp>



<主要商品等(技術etc)>

温浴施設

【連絡先】

TEL：0144-57-0753

FAX：0144-57-0763

取締役総支配人：上野 雅文 様

手打ち生そば 藤 代表者 藤原 謙和 様

〒055-0107

沙流郡平取町本町41番地13

北海道沙流郡で創業して80年目を迎える「伝統の味」を提供しています。

上川産のそば粉を使用し、平たく太めで風味豊かな田舎そばと、味にこだわった秘伝のつゆ。愛別産の舞茸を使用した「舞茸天そば」や、びらとり黒豚を使用した「黒豚肉そば」等の人気メニューを取り揃えております。

地元の方のみならず近郊や札幌などからもたくさんのお客様にご来店頂いており、「おいしい」のひとつと、笑顔を見たい一心で伝統の味を守り続けています。

伝統の手法による蕎麦を味わいに、是非一度ご来店ください。

お土産そばは、地方発送を承っておりますので、ご用命の際は、お電話にてご注文ください。

詳細は、当店のホームページにてご確認ください。HPアドレス：<https://kisobafuji.com>



<主要商品等>

手打ち田舎そば、丼もの、アルコール等をご用意しております。

【連絡先】

TEL：01457-4-6868

ご担当者：藤原 謙和 様

最近の管内のトピックス - 新聞報道より -

※本格操業を開始 ベンチャーグレイン 苫小牧産ウイスキー

苫小牧市柏原(苫東地域)のウイスキー工場、ベンチャーグレインの苫小牧蒸留所は16日、24時間操業の仕込みを開始した。当初予定していた昨春の開業から大幅に遅れたが、待ちに待った本格操業のスタート。-中略- 同蒸留所はトウモロコシを主原料とするグリーンウイスキーを造る。アルコール度数の高い製品を製造するため、消防設備の整備や許認可に時間を要し、海外製機器の搬入も遅れたことなどから、操業開始が後ろ倒しになった。-中略-ウイスキーは短くても3年は熟成させるため、「苫小牧産ウイスキー」が出回るのは早くても29年1月以降。現在は米国産トウモロコシと英国産大麦で仕込んでいるが、将来は道産トウモロコシの活用を目指す。-後略-

(1月17日苫小牧民報より-以下同じ)

※苫東に大規模A I拠点 今春、10^{メガワット}級データセンター

苫小牧市や株式会社苫東などは30日、苫小牧東部産業地域(苫東地域)の臨空柏原地区に大規模なA I(人口知能)データ拠点の開業計画を発表した。特別目的会社(SPC)が「苫小牧A Iファクトリー」の名称で、米国半導体大手N V I D I A(エヌビディア)が開発する最新鋭A Iチップを採用し、スピード感ある事業の進展を想定。既に昨年11月にA Iデータセンター(DC)を着工しており、今春に先行して10^{メガワット}(1万^{キロワット})級を開業、2027年春にも50^{メガワット}(5万^{キロワット})に拡張する予定。デジタル人材育成の拠点化も進める考えだ。-後略-

(1月30日)

※故岩倉前市長に名誉市民 多大な功績たたえる

苫小牧市は18日、5期18年にわたり苫小牧市長を務め、昨年4月に75歳で亡くなった前市長の故岩倉博文氏に名誉市民の称号を贈った。同日開会の市議会定例会で関連議案を全会一致で可決し、金澤市長は「20年先を見据えた地域社会の発展に貢献した」と功績をたたえた。-中略- 名誉市民の称号は8人目。これまで初代市長の田中正太郎氏や5期20年市長を務めた大泉源郎氏、苫小牧港の建設などに尽力した元参院議員の西田信一氏、岩倉氏の祖父岩倉巻次氏ら、いずれも故人の多大な功績をたたえている。

(2月19日)

※6新種の介形虫化石発見 むかわ町穂別博物館 中生代後期地層から

甲殻類に属する微小な節足動物「介形虫」の研究を熊本大学と進めてきたむかわ町穂別博物館は20日、中生代後期白亜紀カンパニアン中期(約8000万年前)の地層から、新属1種を含む新種6種の化石を発見し、昨年12月に研究論文が英文学術雑誌に掲載されたと発表した。-中略- 介形虫は、約4億9000万年前から、化石の記録があり、世界で約4万種が記録されている。日本国内では、新生代で約900種が見つかるが、中世代の化石がほとんど発見されていなかった。-後略-

(2月23日)

※13年連続「億トン港」 苫小牧港25年貨物取扱量1億171万286^{トン}

苫小牧港管理組合がまとめた苫小牧港の港勢(速報値)によると、苫小牧港の2025年貨物取扱量は1億171万286^{トン}で13年から13年連続で1億^{トン}を上回った。1963年の開港以来、貨物量1億^{トン}以上の「億トン港」の連続最長を更新した。前年比1.7%(166万^{トン})増。前年に道内唯一の製油所・出光興産北海道製油所が行ったシャットダウンメンテナンス(SDM)の反動増もあり、前年実績を3年ぶりに上回った。-後略-

(3月19日)

※支笏湖 まさに鏡 樽前山逆さにくつきり

千歳市の支笏湖で26日早朝、穏やかな湖面に周囲の景色が上下対称に映り込む神秘的な光景が広がった。風の強さや気温など幾つかの気象条件が重なると出現する「鏡面現象」で、国内屈指の透明度を誇る同湖の春の風物詩。地元では「鏡」と呼ばれる。朝方の発生が多く、風が出るなど気象条件が変わればすぐに消えてしまう貴重な絶景だ。-後略-

(3月26日)

第17期とましん創生塾 塾生募集!

とましん創生塾スローガン

地域の活性化は、地域を“経営する”ことで活力を生み出し、みんなで笑顔になることだ!

とましん創生塾から発信 SMILES FOR ALL!!

日程予定	場 所	講 師
2025. 7. 7 (火) 開講式 懇親会	グランドホテルニュー王子	中川 政雄 氏 株式会社 オフィス・なかがわ 代表 テーマ：一歩踏み込め景色が変わる
2026. 9. 8 (火)	苫小牧信用金庫本店 6階会議室	篠原 靖 氏 内閣府 地域活性化伝道師・クールジャパン地域プロ デューサー他 テーマ：観光は地域の総力戦! 稼ぐ観光への転換の手法
2026.10. 6 (火)	苫小牧信用金庫本店 6階会議室	竹本 祐司 氏 内閣府 地域活性化伝道師 テーマ：CSR事業が生み出す地域と企業の活性化
2026.11.10 (火)	苫小牧信用金庫本店 6階会議室	田所 かおり 氏 北海道よろず支援拠点 コーディネーター テーマ：地域の食資源を価値に変える～6次化と商品づくりの実 践事例
2026.12. 9 (火)	苫小牧信用金庫本店 6階会議室	中野 純一 氏 公益財団法人 道央産業振興財団 技術コーディネーター テーマ：企業支援機関の活用例 ～GKK(ものづくり活性化チーム-道央圏)
2027. 2. 9 (火) 卒業記念講演・懇親会	グランドホテルニュー王子	中村 拓哉 氏 株式会社 調和技研 代表取締役社長 (北大発認定ベンチャー企業) テーマ：まずはやってみるAI導入-地方企業だから成功する DXの進め方-
時期未定	開催地未定	「地域づくりコーディネーター研修」に派遣

◆定例セミナー セミナー開始時刻17:00～ ※但し、開講記念講演・卒業記念講演は16:00～

◆地域活性化の外部研修会等への派遣

○一財)地域活性化センター主催の「地域づくりコーディネーター研修」等

※原則年度内1回を予定していますが、テーマ・開催地・開催時期等により複数回または見合わせることもありますのでご了承ください。参加費、開催地までの交通費の実費、宿泊費の実費は、とましん創生塾で負担します。

◆募集要項

- 入塾資格 苫小牧信用金庫の営業地区内に事業所又は居所があり、年齢が原則満50歳以下の方
- 募集人数 20名程度
- 受講料 2万円(受講前一括納入となります)
- 事務局 苫小牧信用金庫業務推進部

TEL: 0144-31-2107 FAX: 0144-37-2323

◎入塾希望の方は、苫小牧信用金庫本支店窓口又は「苫小牧信用金庫業務推進部」にお問い合わせください。

とましん景況レポート No.166

令和8年5月発行

発行/苫小牧信用金庫 編集/業務推進部

〒053-8654 苫小牧市表町3丁目1番6号

TEL(0144)31-2107 FAX(0144)37-2323

※本レポートは調査時点における情報提供を目的としています。
したがって投資等についてはご自身の判断によってください。
また、本レポート掲載資料は、当金庫が信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当金庫が正確性および完全性を保証するものではありません。